

IV 本年度前半の記録

※この章の英語版は
別冊となっています。
The English version
of this chapter is
separately bound.

1. 一年生
オリエンテーション 講演会・特別授業
フィールドワーク STEPゼミ GE
2. 二年生
STEPゼミ シナリオプランニング GE
3. 三年生
卒業論文

1. 一年生

1年 ①オリエンテーション (G-Mission)

【意義・ねらい】

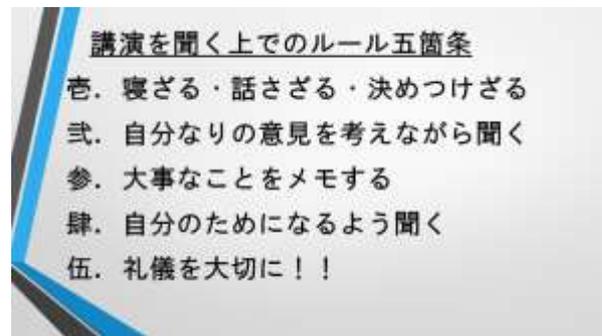
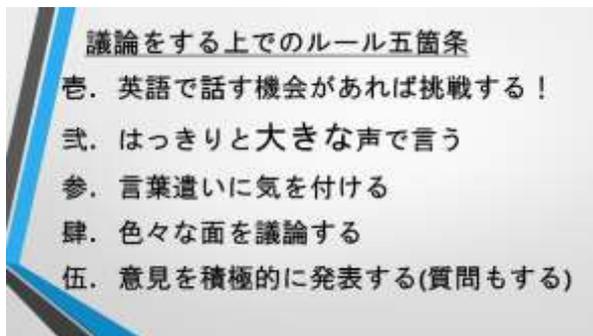
- ・総合的な学習の時間の雰囲気を感じ取る。
- ・グローバルコース生としての自覚を持たせる。
- ・明確な正答が存在しない問いに取り組む姿勢を身につける。

『議論をする上でのルール五箇条』『講演を聴く上でのルール五箇条』を考えて発表し、投票の後一つに絞るという作業を行った。ブレインストーミングの手法で発散と収束を行いながら班の意見として一つにまとめるという作業を行った。

【授業の流れ】

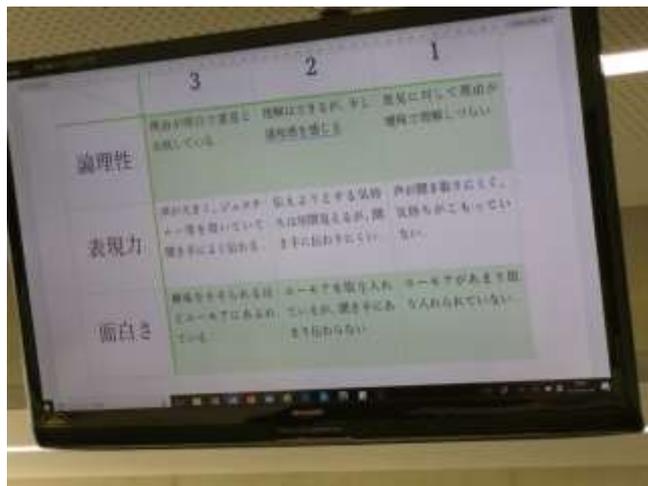
1回目	総合的な学習の時間の進め方、各班で箇条書きにしたものを提出
2回目	どの五つにするか、プレゼンの仕方をディスカッション
3回目	各班による五箇条のプレゼンテーションと投票・オリエンテーションの総括
4回目	シナリオ・プランニングの紹介、「自分自身の今後10年間の年表」を作成
5回目	各班内で各自の年表を見せ合い議論、シナリオ・プランニングの紹介の総括

【生徒作品・成果物】



【生徒の感想】

- ・「どのように発表すると最も聞いている人の印象にのこるか。」を考えることは大切であると思った。次回はぜひ意識したい。
- ・グローバル生になって初めてプレゼンのようなものをして、使える事物はどんどん使っていこうと思える時間を過ごした。
- ・三回のオリエンテーションを通して、班のメンバーで課題について考え、他のメンバーからのアドバイスを参考にして発表したことで、アドバイスを参考にする重要性や、苦手だった発表への耐性がつきました。



【講評】

漠然とものごとを眺めるのではなく、恣意的に視座を定めれば新たな発見や気づきに繋がることを生徒達は体感できた。また、様々な意見を集約していくという作業の中で、意見をまとめる難しさや、発展的な議論を導く難しさを体験できた。その点では当初の狙いは果たせたと言える。ただ、一部のグループは時間内での作業終了を主眼としていたので内容の充実度を重視するよう働きかける必要を感じた。

1年 ②講演会・特別授業

1、グローバル人材のための思考技法

講師：立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科 湊 宣明 准教授

日時：平成30年4月24日（火） 11:45～12:35

内容：①発散と収束という思考技法について

②ブレイクスルーが起きるような発明はメンバーの多様性から起こるという調査結果をもとに、多様なメンバーでの議論が大切であることを学ぶ。

③上記2点を受けて、具体的にグループでブレインストーミングを行ってみる。



2. Political

講師：関西学院大学 法学部 赤星 聖 助教

日時：平成30年5月29日（火） 11:45～12:35

内容：①「国際連合とわたしたち」をテーマに、国際的な観点をもって物事を俯瞰することの重要性を学ぶ。

②「貧困」というものを中心に、教育や環境などの、諸問題における格差是正のための取り組みについて学ぶ。



3. Economics

講師：関西学院大学 イノベーション研究センター 土井 教之 教授

日時：平成30年7月20日（金）13：20～14：10

内容：①日常の疑問を経済学で考えよう

②エネルギー経済のしくみ～産業内と産業間～

③エネルギー経済と経済学～経済学の基本的な考え方～

④企業・産業の経済分析の方法について

4. Societal

講師：関西学院大学 社会学部 村田 泰子 准教授

日時：平成30年6月22日（金）15：20～16：10

内容：①社会学という学問領域について

②ケアと社会—児童虐待の低減をめざす文理融合プロジェクトの経験から—



5. Technological 授業

講師：滋賀県琵琶湖環境部環境政策課 三和 伸彦 先生

日時：平成30年5月22日（火）11：45～12：35

内容：①琵琶湖の価値について

②琵琶湖における課題と取組の経過

③琵琶湖における取組について



1年 ③フィールドワーク

1. Societal

講師：関西学院大学 社会学部 村田 泰子 准教授

日時：平成30年7月12日（木）15：15～16：55

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

参加者：高校1年 グローバルコース生（13名）

テーマ：「ジェンダーの観点から見た中国と日本の違いについて」

内容：①村田先生から日本の子育てについての現状や家族関係の変化についての講義

②上記①を基に、2班に分かれ中国人留学生に中国での子育てや家族についてインタビュー

③インタビューを各班で日本との違いやそれぞれの意見をまとめ、その内容を報告・共有する



2. Political

講師：関西学院大学 法学部 赤星 聖 助教

日時：平成30年10月19日（金）16：50～18：20

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

参加者：高校1年 グローバルコース生（20名）

テーマ：「アフーマティブ・アクションについて」

内容：①関西学院大学の赤星先生のゼミ生からシェリル・ホップウッド事件を事例に、今回のテーマ「アフーマティブ・アクション」について、簡潔な講義を受ける。

②上記①を基に、4班に分かれ、大学生を交えてアフーマティブ・アクションの是非についてグループディスカッションを行う。

③話し合った結論を模造紙にまとめ、その内容を発表し、それぞれの班の意見を共有する。



3. Technological

講師：産業技術総合研究所関西センター 無機機能材料研究部門 堀内 哲也 研究員

日時：平成30年7月24日（火）15:00～17:30

場所：産業技術総合研究所関西センター

参加者：高校1年 グローバルコース生（20名）

テーマ：「接着面積」

内容：①接着面積と接着の強固さを考える。このとき、三角関数などの数学を利用する。さらに実際に木材を用いて模型の椅子を作成した。

②電子顕微鏡などの研究所・設備を見学し、日本の最先端の研究・技術に触れる。



4. Technological

講師：滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課 主任主事 田中 孝佳 さん

滋賀県農政水産部 水産課 水産振興係 主査 関 慎介 さん

日時：平成30年8月1日（水）8:30～17:00

場所：滋賀県高島市周辺

参加者：高校1年 グローバルコース生（20名）

テーマ：琵琶湖に見られる環境問題とその現状を知り、課題への取組方を考える。

内容：①三和漁港での見学と講義

②針江地区のカバタ見学

③ヨシ帯の観察



前期は Political（政治学的分野）と Economic（経済学的分野）を中心に取り組みました。

1) Political（政治学的分野）

【意義・ねらい】

- ・ 他国の文化に関する関心を高め、異文化を持つ者同士でより良い関係を築くために必要なことを考える。
- ・ 調査、発表などに必要な技能を高める。
- ・ グループ活動を通して、課題解決力や問題解決能力を養う。
- ・ 自班の主義主張を押し出して意見を通すという、いわゆるディベートではなく、他班との歩み寄りを考える合意形成過程や協調性を養う。
- ・ 国益という観点で他国との関係を把握する能力を養う

国際政治に関する理解を深める取り組みとして、最終的に「模擬国連」参加に向けての練習課題に取り組む。そのための演習課題として、Politicalの授業では「国連弁当」を題材にしている。これは、国連会議の間食に同じ弁当を食べるとするとどのような弁当が適当か考える課題である。「弁当の中身を考える」という身近なテーマで生徒に取り組みやすさを与える一方、世界各国の食文化、経済状況、産業、宗教、外交関係など様々なことを考える必要があり、総合的な知識や情報収集力が問われている。今年度は日本・中国・アメリカ・オーストラリア・エチオピア・スペイン・ブラジル・サウジアラビアの8ヶ国が中心となって会議を行っているという想定で課題に取り組んだ。

【授業の流れと生徒の感想】

回	内容	生徒の動き
1回目	ガイダンス	全体を8班に分け、各班がどの国を担当するかを決める。その国を知る上でどのような情報が必要かを考え、ディスカッションする。
2回目	Position Paper (基礎情報)作成	担当した国について人口や経済規模、宗教、政治体制、同盟関係など知っておくべき情報をまとめる。
3回目	Policy Paper (政策立案)作成	会議に参加するにあたり、自国が得ることができる利益、また、被るかもしれない不利益等を考えて、どのような決議案を作成していくかという方針を考える。
4回目	決議案作成	政策立案を元に、自国が出す決議案を考え、紙にまとめる。その後、全体で共有する。
5回目	非着席討議	各国が出した決議案を見て、他国に要望を述べる。また、自国の決議案に対しても意見をもらう。
6回目	決議案練り直し	前回の非着席討議を踏まえて、決議案の修正を行う。決議案の賛成を得ることができるように練り直す。
7回目	決議案の発表	パワーポイントを用いて、決議案の発表を行う。各国の決議案を聞き、どの決議案に賛成かを考える。
8回目	討議・まとめ	再度討議を行い、決議案の修正を行う。また、アンケートを用いて、決議案の可否を問う。

【生徒作品・成果物】

- ・生徒の決議案の一部

MODEL UNITED NATIONS

 GENERAL ASSMBLY

DR.(China)

2018.10.16

Sponsor: ()

前文

中国は「一帯一路」を更に発展させたいと考えています。「一帯」とは中国から中央アジア、西アジア、ロシア、ヨーロッパへと繋がるルート。「一路」とは中国から南シナ海、インド洋、アラビア海を経て地中海へと至るルート海上交通ルートを指します。「一帯一路」ではルート沿線の国々と総合的発展を目指しており、そのために途上国へのインフラ整備などの投資を行うなどの活動を行っています。世界の国々との経済的協力によって、南北問題解決の足掛かりとなることを期待します。

正文

お弁当のメニューはチャーハン、チンジャオロース、春雨サラダです。

チャーハン⇨ブラジルのお米、ギリシャの卵を使用。ブラジルの属する南米はアメリカの裏庭と呼ばれており、ブラジルが「一帯一路」に参加することでインド太平洋戦略により「一帯一路」の総合的な発展を妨げるアメリカに対しての牽制になることを望む。ブラジルは「一帯一路」構想のラインから外れた地域であるが、「一帯一路」ニュース交流協力協定を正式に締結するなどの姿勢がみられ、南米が「一帯一路」への理解を示すきっかけとなると予想される。

また、ギリシャは「一帯一路」構想で重要な土地である。ギリシャのピレウス港はヨーロッパに中国の輸出品を流通させる上で必要な場所となり、ヨーロッパの中でも「一帯一路」に協力的なギリシャを支える目的である。



【講評】

- ・国の情報収集では生徒たちはインターネットの情報に頼りがちであったので、もう少し新聞や書籍などからも情報を集めるべきであったと思う。
- ・「国連弁当」というものを考える上で、各国の習慣や宗教の観点から、全世界の人々が納得して食べられるものというのは限りなくゼロに近い。だからこそ、自分の主張を突き通すだけでは、円滑に話し合いが進まないということを、身をもって学んでくれたと思う。
- ・各国との国益を調整するための「交渉」を重点的に学んでほしいと考えた。国益という観点で、他国との交渉を進めるのは非常に難しい様子であったが、よく取り組んでくれていたと思う。目の前の食材の融通だけに終始するのではなく、より広い国際的な視野で国益をとらえ、模擬国連に取り組んでもらいたい。
- ・生徒たちには、この Political の授業をきっかけに「模擬国連」というものを身近に感じてほしいと思う。そして、来年度には本格的に「全日本高校模擬国連大会」などの全国的な大会に出場できるように努力を続けてほしい。

2)Economic (経済学的分野)

【意義・ねらい】

- ・ 社会的課題、グローバルイシューという観点から経済を考える。
- ・ 業界研究、企業研究を通して企業活動や技術の動向を知る。
- ・ ヴァーチャル投資を利用して世界と日本の経済の動きを理解する。
→ 株価変動の背後にある「経済・社会の動き」に関心を持ち、
自分たちの生活や社会の変化と経済の関係を知る。



企業活動や技術革新の分析を通して経済の基礎知識を身につけさせ、様々な社会的課題・グローバルイシューを解決するための発展的な議論が出来る素地を育成することを目標とした。情報を与えるのではなく自ら情報を求めさせる方法として、日経ストックリーグの手法を活用した上で、株式学習ゲームを利用してヴァーチャル投資を実施した。企業への投資行動により、企業活動、保有技術、社会的貢献への取り組みといったミクロな視点を養うことが期待できる。また、株価変動は内外の経済・政治など様々な影響をうけるため、マクロな視点を養うことが期待できる。

【授業の流れ】

1回目	経済の動きと社会的な課題について考えよう
2回目	自分たちのテーマを設定しよう
3回目	テーマに関する企業を調べよう
4回目	テーマに沿った企業を選別しよう (スクリーニング)
5回目	中間発表
6回目	テーマに沿った企業に投資しよう (ポートフォリオ構築)
7回目	プレゼンテーション
8回目	振り返り・まとめ・レポート修正

今回の授業では最終的にテーマに関するプレゼンテーションとレポートの作成を行うこととした。プレゼンテーションだけではなく、レポートを課した理由は、テーマについて論理的に考えられているか、資料などを吟味しているかなど短時間の発表だけでは分からない部分を見るためである。

テーマ設定ではブレインストーミング法と親和図法を用いて、テーマを決定した。研究テーマに関係する企業は主にインターネットや四季報、業界地図などを使い調べ、ポートフォリオの作成では株式投資の代表的な指標や、チームで考えた指標などを検討させ、その指標の意味について考えさせるようにした。プレゼンテーションの授業では、採点は Classi を活用し、ルーブリック評価表に従って各生徒が行った。最後の時間では、採点結果の分析や取り組みに関する振り返り、レポートの修正作業を行った。

【生徒の感想】

- ・ 良かった点は、メンバー全員が協力して良いものを作り上げようとしていて、向上心をもってこの活動に望めた所です。今後は、インターネットの知識だけでなく、飢餓に関する本を読んで、更に深い内容にしていきたいと思いました。

- ・今回の活動を通して多くのことを学びました。投資に関するだけでなく、答えのないものを考えることの難しさを味わいました。考えれば考えるほど疑問が出てきてともしんどかったですが、みんなと考えることで、そんな考え方もあったんだ！と気づくことができ、いろいろなアイデアを共有できました。
- ・良かった点は、みんながそれぞれ意見を交換し合って客観的にみたらどうなるかを考えて企業を絞ることで、少しでも視野が広がったことです。また、第一スクリーニングで自分たちがなにをしたいかということを明確に把握できたし、第三スクリーニングの採点では投資する側の利益や自分たちのテーマに沿うかということを考えて絞ることで、普段考えていないことを認識できるようになりました。
- ・今まで考えたこともなかった分野で、たくさんのことを学べて成長できた面もたくさんあったと思います。これからのグローバルの活動も頑張っていきたいです。

【生徒作品・成果物】



【講評】

《良かった点》

- ・班ごとに様々な社会的課題、グローバルイシューについて検討し、班員同士で意見や価値観を交流することによって、物事を多角的に捉えるなど生徒の視野が拡大していた。また、集団の中での自らの役割を意識し、何をすればチームに貢献できるのかを考え、行動しようとする姿が見られた。
- ・授業後のアンケートで、「テーマに興味・関心を持つことができた」「課題発見能力が伸長した」「表現力・発信力が身についた」などの項目は、肯定的な回答が多く見られた。

《反省点》

- ・プレゼンテーションやレポートの期限ぎりぎりになってから焦って取り組む、といった計画性の弱い班も一部で見られた。但し、プレゼンテーション準備の時間を設定すべきだった。

3) Societal (社会学的分野)

【意義・ねらい】

- ・表計算ソフトによる統計処理を実施する
- ・論理的思考力を養う
- ・社会調査を行う
- ・データから人を納得させる立論をする

【授業の流れ】

1 回目	各学問領域の説明と社会学についての説明
2 回目	一律課題による模擬アンケートの作成
3 回目	班ごとに分かれてのアンケート実施についての企画書作成

【生徒作品・成果物】



〈アンケート調査についての企画書〉

【講評】

本年度から活動の主体が下半期に移り、まだ三回しか授業を行っていないということもあり、良かったところも悪かったところも見える段階までは来ていない。これまでの Societal では、「当たり前を疑う」ということに主眼を置き、それを証明する形で授業を進めていた。しかし、やや観念的であり、生徒の思考が追いつかない場面も見受けられた。そこで本年度は「〇〇を〇〇にする方法を探る」というトピックに統一し、より具体的に思考を進められるように図っている。これは次年度の本格的なゼミ活動や、SP を見据えての措置であり、STEP ゼミと SP の有機的な連携を模索した結果である。

方向性を修正したことで、今後の見通しが立ちにくくなったこともあり、全 7 回という短い時間でどこまでできるのか、担当者としても不安の残るところであるが、上半期の Political や Economic で様々な活動実績を積んできた生徒諸君の健闘に期待している。

4)Technological (科学的分野)

【意義・ねらい】

- ・ 環境問題について関心をもってもらう
- ・ データが示している内容を正しく読み取る
- ・ 論理的思考力を養う
- ・ グループ活動を通して、協調性と問題解決能力を養う
- ・ 調査、発表などに必要な技能を身に付けさせる



南海羽衣駅ホーム天井の太陽光パネル
駅で使用する電力の一部に利用している

【授業の流れ】

1 回目	環境問題から見る琵琶湖① 外来種、湿地保全について
2 回目	環境問題から見る琵琶湖② 水質、生態系について
3 回目	環境問題から見るエネルギー① 太陽光発電など次世代のエネルギーについて
4 回目	環境問題から見るエネルギー② エネルギー資源とその再利用について
FW(希望者)	現地に足を運び、現状を見ることで、課題への取組方を考える。

【生徒の感想】

<講演会を聞いて>

- ・ 今までは、琵琶湖の生態系が問題であるということぐらいしか知らなかったが、今回の話を通して、琵琶湖の生態系が問題であり、そのことで社会が衰退し、経済が悪化する、という因果関係を学んだ。自然、歴史に価値を見出し、そこに経済の循環を生み出すことで、持続可能な地域の社会システムを作る→投資をする人が増える。そのため、琵琶湖からの恩恵を受け取っている私たちは昔のように有リン入りの洗剤を使わないということだけでなく、様々な保全活動に参加したり、琵琶湖の郷土料理を食べるなどして貢献したり、していかなければならないと思った。

<FWを終えて>

- ・ 私は今まで琵琶湖に行ったことがありませんでした。初めて琵琶湖周辺の村を散策して、インターネットで調べるだけではわからないようなことをたくさん学びました。「かばた」というものを初めて見て、滋賀県の人々はとても琵琶湖を大事にしているんだなあと思いました。琵琶湖にゴミが流れないようにきれいに掃除したりしていたり、洗剤などを使わないように努力していることとかも感心しました。実際に船に乗って魚をとったときも、この人たちの努力のおかげだなあと実感しました。私たちも、水を汚さないように気を付けなければいけないなあと思いました。

【講評】

予想通り、琵琶湖で見られる問題の多くは生徒たちにとって初めて聞いた内容であった。4回の授業またさらに講演会やFWを通じて、多くの生徒は琵琶湖の環境が自分たちの生活に大きく関係していることを徐々に感じてきている。琵琶湖で見られる環境問題は、どれも生徒が興味を持ちやすい内容であり、課題を解決しようとする生徒たちの意欲は高いと思われる。後半では、太陽光発電など再生可能エネルギーの利用を通して環境問題に取り組んでいく予定である。

⑤ Global English for 1st Year Students

【意義・ねらい】

- ① 英語によるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。
- ② global issues に対する理解を深め、地球規模の視点でその問題について議論する。



【授業の概要】

(授業構成)

- ① 1クラス(約40名)を約20名ずつのグループに分けて授業を行う。
- ② 各グループに対し、日本人教員1名と外国人教員1名が指導にあたる。
- ③ 授業は基本的に英語で行い、生徒同士も原則的に英語で会話をする。

(活動内容)

- ① 「スティーブ・ジョブズによる iPhone のプレゼンテーション」を見て効果的なプレゼンテーションの方法を考察する。
- ② 「ドラえものの道具」から好きな道具を選びそれを販売するために効果的なプレゼンテーションを各班で考える。(各班2~3名)
- ③ パワーポイント等を使い英語で効果的な販売プレゼンテーションを作成する。
- ④ 用意した原稿を読むだけにならないように、発表の練習をする。(アイコンタクトや声の大きさ、ジェスチャーなど、プレゼンテーションの基本をもとに練習する。)
- ⑤ 各班ごとに、約4分間で発表し評価シートをもとに評価し競い合う。
- ⑥ 「a person I want to feature」自分が取り上げたい人物。尊敬、憧れ、好き、嫌い等、自分にとって印象のある人物を選び、その人物を紹介するプレゼンテーションを作成する。誹謗中傷にならないように注意する。大衆が認知できる実在の人物を選ぶ。
- ⑦ 生徒がイメージしやすいように教員が作成したプレゼンテーションを見せてグループ分け、人物選択、プレゼンテーション作成を行う。
- ⑧ 前回のプレゼンテーション同様、班ごとに、約4分間で発表し評価シートをもとに評価し競い合う。

Stan Lee

- American comic book writer, editor and publisher.
- Famous for his work with Marvel Comics
- Born: December 28th 1922
- 95 years old
- Real name: Stanley



Marvel studios

- Cameos
- Cameo means 'A small guest appearance'
- Almost every Marvel movie
- For example...



【生徒の感想】

① In first class, I saw the presentation that Steve Jobs introduced iPhone. His presentation made me want to know more about it. Then, I had a presentation for introducing a tool made by Doraemon, called Dokodemo-door. I've never made a presentation in English, so I didn't know how to make a good presentation. I saw his presentation many times, eventually I found out that it was different from Japanese one. I tended to use difficult words, but I noticed that I should use simple words and make short sentences. So, I tried to make simple sentences. After that, I made Power Point for the first time. I didn't know how to make an attractive Power Point like Steve Jobs', and it was trial and error.

Through GE classes, I learned how important a presentation is. Whether my presentation would be good or not, it can give the people some impression.

② Through this GE class, I learned two important points of giving a presentation.

First, we should use simple words. We often use PowerPoint on presentation. To tell people my opinion exactly and briefly, long and complex text is good to use? We may have only one chance to tell people our opinion, so we must get the audience to understand our opinions .

Second, we should use a body language. To make the audience take an interest in our presentation, we should explain our opinion not only saying our draft but also using body language. I think body language has an effect which makes speaker and audience get closer to each other. So, we should use it.

Lastly, why I learned them is that I watched a video of Steve Jobs gave a presentation about first iPhone on GE class. His way was completed of these two points, and his presentation amused his audience, too. So, I will do my best to give a presentation, and I want to be a good speaker of a presentation.

③ これまでの3回のGEの授業で、私は英語でプレゼンを行う際の簡単な注意点を学び、そしてそれを踏まえてドラえものの秘密道具について発表しました。私が最も印象に残った海外と日本のプレゼンの違いは、海外では面白いプレゼンが当たり前で面白くないと聞いてもらえないということです。日本ではプレゼンは真面目に資料を暗記して読むだけというものですが、GEの授業で見た海外のプレゼンはユーモアがあり、面白いものでした。また、英語で簡単なプレゼンをしました。初めての経験で大変でしたが何とか英語で発表できました。これからは海外に行ったときにとっさにプレゼンができるくらい練習して、上達していきたいです。

【Teachers' Comments】

Students were taught presentation skills in English, with a view to improving their performance in delivering compelling presentations during their field work trips in March of 2019. The students were shown videos of English presentations in order to highlight the differences in style and content between presentations carried out in English, and presentations carried out in Japanese. This allowed to see that cultural norms, as well as language are important factors in determining what constitutes a "good" presentation, and how these norms may vary from country to country.

An understanding of the close relation between language and culture is vital for students if they wish to participate in in global events. Through studying the skills required to carry out successful presentations in English, and by analyzing how these skills differ to the skills required to present successfully in Japanese, the students are also learning important lessons in cross-cultural communication.

2. 二年生

2年 ①STEPゼミ

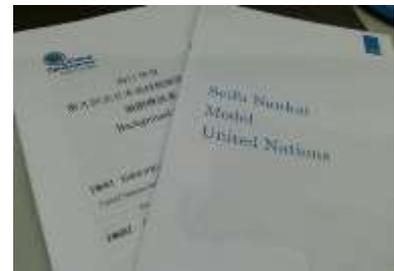
1)Political (政治学的分野)

【意義・ねらい】

模擬国連では自らの担当する国の課題を探り出し、解決のための決議案を考える。そしてそれが決議となるよう、他の国から理解が得られるよう説明し、折衝する。この取り組みを通して生徒たちは、政治とは「最大多数の最大幸福」を実現するものであると実感し、自国だけの利益にとらわれてはいけないということに気づくはずである。この自己にとらわれず多様性を認める姿勢こそ、生徒たちが政治を学ぶことを通じて身につけるべきものである。

具体的には①1名ずつ担当国を決定、②担当国の政治・経済、課題等の調査、③議題についての政策立案、発表、④担当国代表として他国大使と交渉、という流れで展開する。

本年の前半は、「食料安全保障」を議題とし、模擬国連活動を行うことによって、他国への関心、課題発見・解決能力に加え、専門知識の取得（法令等の読解）、プレゼンテーション能力や表現力、交渉力などを養うことをねらいとした。



【授業の流れ】

1回目	授業ガイダンス、担当国決定、議題発表
2回目	議題についてのレクチャー①、 Position Paper(基礎情報)作成
3回目	議題についてのレクチャー②、 Policy Paper(政策立案書)作成
4回目	政策発表、 決議案を考える
5回目	会議1日目 【speech】 フランス・タイ・チリ・韓国・ブラジル・オーストラリア 【motion】 アフガニスタン「各国が1分間で立場表明」 【議長提案】 「論点整理」→食肉・バイオについて話し合う
6回目	会議2日目 【speech】 ギリシア・アメリカ 【motion】 チリ・フランス 「20分間アンモデ」 【speech】 カナダ・スペイン
7回目	会議3日目 【speech】 ドイツ・シンガポール・アフガニスタン・マレーシア 【vote】



【生徒作品・成果物】

マレーシアによる決議案

作成国	Malaysia
スポンサー	Chile Afghanistan Australia United States Brazil
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイオディーゼルの使用を各国で推進する。 ・ バイオディーゼルの原料（アブラヤシ等）の生産は推進せず現状維持を目指す ・ 小麦、トウモロコシのバイオエタノールへの使用を制限する。具体的には小麦、またはトウモロコシの自給率が100%に満たない国はバイオエタノールの生産を禁止、100%を超える国は各穀物の生産量の数%のみバイオエタノールへの使用を許可する。 ・ 食肉消費は増加のみ制限し、基本的に現状維持を目指す。

【生徒の感想】

- ・ 今回の会議は、決議案が多少尖らず平坦な話し合いになってしまった気がします。不慣れな部分があり、交渉に偏りがでてしまいました。最終的な決議案は提出できたのですが、自国の利益を考えきれてなかったことを次回には達成したいと思っています。
- ・ みんなが主体的に声かけをすべきだと思った。

【講評】

《良かった点》

- ・ 今会議は、第8回全日本高校模擬国連大会で使用された議題解説書を用い、国連会議を模擬した。全員が解説書を熟読して、論点を把握し会議に臨むことができていた。
- ・ 授業での取り組みをきっかけに、学校外で行われている模擬国連大会に出場する生徒が出てきた。

生徒が参加した主な模擬国連大会	主催者	開催月
MUN KYOTO (オブザーバー)	京都外大西高等学校	6月
MUN OSAKA	関西インターナショナル高校	7月
灘高校模擬国連大会	灘高校	11月
第12回全日本高校模擬国連大会	グローバルクラスルーム	11月

《反省点》

- ・ 会議の後半では、リーダーシップを発揮する者の発言で会議の流れが決まっていた。一人一人が会議の準備をし、積極的に発言をしてくれるとなお良かった。

2) Societal (社会学的分野)

【意義・ねらい】

社会や人間そのものに対する考察を深める訓練を行う。具体的には、様々な具体的な事象に対する“分析”を行う訓練と、その“分析”を基に物事を生み出す訓練を意識して行った。

加えて、外部の評価を得るような活動が必要だと考え、前半では生徒の希望別に「KUBIC」「全国高等学校観光選手権大会」「ビジネスグランプリ」に応募した。なおゼミとしての最終課題は「キャリア甲子園」に設定している。

【授業の流れ】

1回目	「社会学」及び年間の活動についてのガイダンス
2回目	日本政策金融公庫より基礎ビジネス講座①
3～7回目	統計資料を用いながら具体的なプランの作成
8回目	プレゼンテーション及び日本政策金融公庫より基礎ビジネス講座②
9回目	1学期の振り返り及び「キャリア甲子園」テーマ決め

【生徒作品・成果物】

ビジネスグランプリプラン一例「ねむりブランケット～機内用ブランケット～」試作品及び調査報告



○20～30代の女性を対象に約200人にアンケートを実施した。

※今回は本校の卒業生にもアンケートの回答・拡散をお願いしたため、10代の方の大半は大学生だと考えられる。よって今回は10代の方も20代とみなした。

Q1. 冷えを感じたことがあるか



この結果から、約70%の女性が冷えを感じ、ブランケットは実用的であるとわかる。

Q2. 理想のブランケットを買う値段



販売価格は3,000円と設定したので、半数以上の20～30代の女性の理想の価格となった。体を覆うほどのサイズなので、1,000～2,000円層の女性も購入する見込みがある。

Q3. 理想のブランケットをレンタル値段



レンタル価格は500円と設定したので、20～30代の女性の80%以上の理想の価格となった。

【生徒の感想】

- ・過去の受賞作品のいい所を調べ、今後の予定を考えました。受賞作品は発表内容がとても具体的で、実地調査を行ったり、実際に作ってみたりしたところが多かったです。誰に対するサービスかも明確にすべきだと感じました。予定が詰まっているので早め早めに動いていきたいです。
- ・今回は応募までのスケジューリングと過去のビジネスグランプリの分析を行いました。共通点を見出す際にも、凄かったではなく、どこがどのように凄かったのかを意識しました。次回からもビジネスグランプリに向けて準備していきたいです。
- ・今後のスケジュールをたてました。先行研究をしたところ、地域色が強い、企業の力を借りているというのはグランプリに選ばれたほとんどのチームに当てはまりました。
- ・今日はドライビングフォースで出したものを step の分野に分けて討論しました。
- ・実際にブランケットを欲しがっている人がいるのかを調査しておく必要があると思う。LCCに限らず、航空機の利用客全体の傾向を見る必要があると思う。また、機能面については、ブランケットの利点を十分に発揮できるようなものにする必要があると思う。
- ・機内向けブランケットに関して、寒くてもブランケットを買うかどうか分からない。家から持ってきたりしないだろうか。空港に限らず、旅行備品を扱う店で買えば機内に限らず使えると思う。

【講評】

《良かった点》

- ・様々な資料を付き合わせるという作業を創造的作業へと繋げていく経験は貴重なものであったかと思う。意識調査や統計学的な指標を用いるという高校1年生でのSゼミでの活動を生かす機会ともなり、連続性を持った取り組みとなった。総じてSPを実施する際に求められるエビデンスや仮説構築について考えるトレーニングになったのではないかと考えている。
- ・観光甲子園では奨励賞、大阪府統計コンクールでは特賞を受賞し、取り組みの成果を得られた。

《反省点》

- ・ヒアリングや実地調査が十分にできず、インターネット上の情報で終始したチームがあった。
- ・プラン提示にあたって、一本のストーリーを持ったものとして提示できておらず、観光地の羅列に終わっているチームがあった。
- ・各自のスケジューリングを基に進行したが、順調にはいかず、締め切り間際までプランが完成しなかった。



3)Economic (経済的分野)

【意義・ねらい】

経済と一口にいても、経済政策や企業行動、金融政策や株・為替などその対象は様々である。SPにつながる経済の知識を身につけさせるとともに、グローバルリーダーとしての資質や実際の進路選択にもつながる活動を考えた。その手段として、日本経済新聞が主催している日経ストックリーグを用いた。日経ストックリーグは大学生を中心としたポートフォリオ作成のコンテストであるが、高校生や中学生も参加し、高校生の優勝チームも出ているものである。様々な社会的な問題をテーマにし、企業活動を研究しながらポートフォリオを組むことで、金融政策や国際関係など幅広い知識の習得も含め、経済的な考え方や知識が身につけられる。

【授業の流れ】

1回目	ガイダンス、チーム作成
2回目	入賞作品の分析
3回目	為替のしくみ
4回目	テーマの決定
5回目	各班の活動
6回目	各班の活動
7回目	各班の活動
8回目	各班の活動
9回目	中間発表
10回目	各班の活動

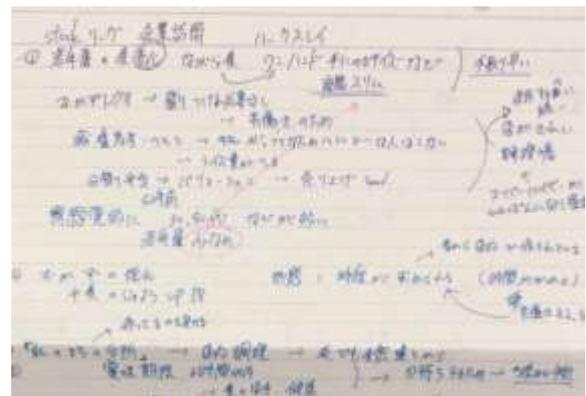
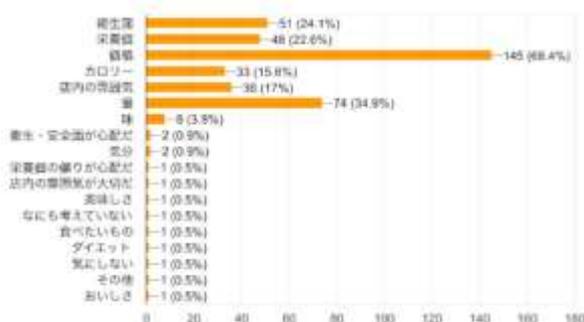
【課題研究テーマ】

教育問題・食の安全と食生活の変化・災害対策・医療

【生徒作品・成果物】

⑤コンビニの弁当、ファストフード、ファミリーレストランなどを利用する際にどのようなことを気にしますか。(複数選択可)

212件の回答



【生徒の感想】

各自が調べてきたレポートについて意見を交換した。大学生のレポートは専門用語や数式が多く難解であったが、高校生に求められているのはそういう専門的なことではないと考えた。中高生の受賞作は、企業訪問や自分たちの意見がしっかりしていた。そのため、今年は作業を計画的に進め、そこまで手が回るようにしたい。

参考レポートの特徴を話し合った。それぞれに目立った特徴があったが、共通してあったことはそれぞれがそのテーマについて意欲的に調べていたのだろうなと感じられることである。今回の挑戦で、読み手にそう思ってもらえるようなレポートを作りたい

為替についての講義を聞き PDF を読んだ。 マイナス低金利がとても難しく感じた。6月末の予想に向けてもっと知識が必要だと思うので、配信された資料を読もうと思う。そのことだけでなく、世界で起こっている時事も理解しておかないといけないと思った。

今回はテーマについての話し合い、ストックリーグの登録を行った。先日あげたテーマの候補の中から、難しそうな項目（特殊すぎる物、去年に近い物）を除いた。残った項目を整理すると、「教育」にまとめることができた。今後「教育」から膨らませていくので、これから情報を集めていこうと思う。

今日ようやくテーマ候補が絞れて来た。『教育』『福祉』『観光』『小説』『city planning』などだ。今のところ『city planning』がどの案もひっくるめられて有力な案だとされているが、どの街について考えるかで変わってくると思うのでもう少し具体的に調査をし、決定したい。

他の班も面白いテーマを選んでいるなど思った。特に「食」のテーマが面白そうだった。自分の班も負けられないように頑張りたい。

第2スクリーニングまで進めていたが、方針が変わり 日本の国内において投資するという事で2つあった目標を1つに絞った。そろそろ深く考え始めないといけない頃なので早く方針を定めて企業を選定しようと思う。

【講評】

1年生に引きつづきストックリーグに参加するが、今年度は本格参戦という形となっている。昨年、敢闘賞を受賞したチームが在籍しているためか、例年以上に気合いが入っている。まずは、過去のレポートを分析し、なぜ入賞したのかを各チームに考えさせた。入賞レポートの特徴を踏まえることで、自分たちが今後どのような活動をしていくべきかがわかり、またどのような内容を書くべきかもわかったようだ。テーマ設定は重要であると伝え、課題研究をする意義を時間をかけて考えさせた。テーマを決めた後は、スクリーニングや企業訪問などを行っている。各段階に締め切りを設けていなかったため、チームによって進み具合が違い、授業としての発表は簡単な中間報告という形でしかできなかった。



4)Technological (科学技術的分野)

【意義・ねらい】

現在の世界が抱えるエネルギー問題について幅広い知見を身につける。そのために様々な電力問題や発電方法について学習する。中でも、化石燃料に代わるクリーンなエネルギーとして政府が導入・普及の促進を目指す再生可能エネルギーについて深く考える。また、既存の技術やこれから発展する技術を利用していかに人々の生活をより良いものにしていくか根拠を示しながら、論理的に考える視点をレポートとして提出させた。これらを包括的に学習してシナリオ・プランニングに備える。

【授業の流れ】

1回目	太陽光発電の概要について
2回目	様々な太陽電池、太陽光発電の意義について調べる（1回目）
3回目	様々な太陽電池、太陽光発電の意義について調べる（2回目）
4回目	太陽光発電についてのプレゼンテーション
5回目	世界に発信する日本のイノベーションについての小論文作成（1回目）
6回目	世界に発信する日本のイノベーションについての小論文作成（2回目）
7回目	京都大学での太陽電池作成実習のための事前指導
8回目	太陽電池作成実習のレポート作成

【生徒の感想】

- ・ 普段決して行えない実験ができてとても充実しました。また実験を行っただけでなく京都大学の学生さんと勉強のことや大学生活について話ができたり、自分たちが興味を持ったことについて教授に自由に質問をし、その答えを教えられたりとても為になる活動でした。実際に体験することで本やネットで調べるよりも知識を大幅に吸収することができたので、機会があればまた挑戦してみたいです。
- ・ 京大の若宮教授が専門的に研究していらっしゃるペロブスカイト太陽電池を作らせていただきました。この太陽電池の作り方を本当は1億円出しても知りたい企業があるのに、僕たちは実習という形でご本人から教わっているのはすごい事で、良い経験になりました。実際作り始めると大学でも研究室に入らないとさわれない様な機械や施設を使わせていただけました。また、滅多にできない経験もそうですが、世界で活躍されている方とお話しできたことも良かったです。

【京都大学での太陽電池作成実習】



京都大学での太陽電池作成実習の様子

【生徒作品・成果物】



近年、現在の職業が 2050 年には約半数がなくなると囁かれ、その原因の一端として AI の発達頻りにあげられる。しかしその一方で、AI の進化によって新たな職業が生まれ出されるということも聞く。おそらくそれはどちらも間違えていないだろう。しかし、どのような職業が無くなるのか、そして生まれるのかを考えると、ある意味当然ながら生まれ出される職業は私たちに、到底想像もつかない。だが、無くなってしまふ職業については、今日でも多く議論されている。例を挙げればきりが無いが、レジ店員やタクシ-の運転手などが挙げられる。これら AI に取って代わられる職業の共通点は、比較的作業が単純であるということがまず第一に挙げられるだろう。

今回提案するのは、AI が AI を管理し AI がロボットを管理する、人を必要としない AI とロボットだけの工場である。なぜこのような提案をするのか。それは日本が世界有数の産業大国であり、戦後材料を輸入して加工する形で日本の経済は発展してきた。そこには大量の人的コストが発生し、海外へ工場を移転する企業もあるが、人的コストがかからない工場ならばどうだろうか。売上高人的コスト比率は近年減少傾向(資料)にあるが、その背景には国内の工場を海外へ移転させ、そこで作った製品を輸入していることが挙げられるだろう。しかしそれでは、海外で製品を生産しているため国内の経済力・技術力は衰退してしまう。ならば、そもそも人的コストがかかれば、海外に移転するメリットが減少するのではないかと、そして国内の経済が後退することが無くなるのではないかと考えたからだ。

そもそも AI にはどのような可能性があるのだろうか、それを知るためには AI を理解することから始めなければならぬ。まず AI とロボットの違いから定義したい。AI とは人と同様に発展する仕組みで、ロボットは決められた動きしかできないものである。AI には使用用途で学習の仕方が変わる。AI の学習には教師あり学習と教師なし学習がある。教師あり学習は、大量の正解データを使い正解データの特徴を読み込ませることでそれが何かを識別できるようにする学習だ。一方、教師なし学習ではデータを入力するだけで、正解データと言うものではなく、答えのない問題について、例えば未来予測や分析に使われている。その他には強化学習というものもあり、それは目的と条件を与えられ、目的達成のために試行を繰り返して学習するものだが、現在のところ扱いが難しく利用はあまりなされていない。

私はこれらを踏まえ、また専門家である大阪大学基礎工学部 4 年 佐久間洋司さんに質問した結果、教師あり学習が今回の命題に向いていると考えた。AI が AI を管理することは可能か? という私の質問に対して、管理の意味合いをどうするのかで答えが変わってくる。例えば上位の AI からその

生徒の太陽電池についてのプレゼンテーション資料とイノベーションに関する小論文 (一部)

【講評】

《良かった点》

- ・ レポートを生徒に書かせることで、論理的に説明すること大切さを学ばせることができた。
- ・ 教師側から知識を教えるのではなく、生徒が自ら太陽電池について調べ、学べたのはよかった。
- ・ 発表は全員が説明する形式をとったので、全員が理解し、知識を定着できた。
- ・ 太陽電池を作成することにより、さらに太陽電池について深く学べた。

《反省点》

- ・ 専門的な言葉が出てきて非常に苦労していた生徒もいた。
- ・ 今年度の新たな取り組みとして小論文コンテストへの提出をしたが、他のプレゼンテーション等と重なり、内容を精査しきれなかった点がある。全体的なスケジュールを見直す必要がある。

2年 ②シナリオ・プランニング (SP)

【意義・ねらい】

シナリオ・プランニング(以下 SP)の手法を学び、この SP を用いて、課題解決学習につなげていく。この活動では SP はあくまでも手段であって、SP を学ぶことを目的としていない。課題解決学習の方法は様々あるが、ビジネス手法を応用する例は少ないであろう。SP は未来のことを考え、それに対応する方法を考えるための手法である。グローバルリーダーの資質として、現状の課題解決のみならず、将来のことを見据えて物事を考え、行動できることが求められる。これらの活動を通して、課題設定力・論理的思考力・資料分析能力・批判的思考力などを養うことを目的としている。そのため、今年度はシナリオを作成する「主体者」を明確にし、シナリオに対する対応策や戦略も考えさせている。

【授業の流れ】

0回目 (1年2月)	シナリオ・プランニングについて ドライビングフォースを考える
1回目	チーム決め(生徒が話し合いで決めた)
2回目	宿題(研究トピック決めの準備)の発表
3回目	研究トピック決め 課題の設定理由の作成
4回目	不確実性とインパクトの講義
5～8回目	ドライビングフォースの列挙と重要因子の特定
9回目	シナリオ作成の講義①
10回目	各班の活動
11回目	シナリオ作成の講義②
12回目	発表準備
13・14回目	発表内容のチェック
15・16回目	発表



SPは複数の手順を踏んで論理的にシナリオを作成していく。そのため、複数回にわたり、各段階で講義をしながら進めた。講義は「ドライビングフォース」「不確実性とインパクト」「シナリオの作成」という3段階を踏んだ。1年生の最後の授業で「10年後のコンビニ」というテーマでドライビングフォースの列挙を行い、ブレインストーミングとともに練習を行った。春休みの宿題としてエネルギーに関する課題研究のトピックを考えてくるように指示し、2回目の授業から作業に入った。トピックを決めた後は、トピックを決めた理由を考えさせた。ここでは課題研究にあたって意義のあることなのかを吟味させ、安易な研究テーマにならないように気をつけた。重要因子の特定にあたっては、STEP分析とSWOT分析を組み合わせた。ドライビングフォースの評価はしっかりとした資料をもとに判断させるため、十分な時間を確保した。シナリオの作成は様々な出来事を時系列で並べた後に、文章化するように指導した。

【生徒の感想】

- ・軸を決めていくにあたって、主体者を絞ろうという話し合いをしていた。しかし、自分たちの考えのズレから少し口論になってしまって、大幅に時間を食ってしまった。そもそも知識量が足りていないのに、あまり意味のない口論に時間を潰してしまったことが今日 1 番の心残りである。今週までには軸を決めるということで、まず主体者を決めるにあたって過去の資料を徹底的に調べる必要があると感じた。
- ・決めたテーマの軸を先生に見てもらった。テーマは新関空株式会社の社長から見た事業内容なのに、軸が 2 つとも観光客に焦点を当てたものになっていた。空港というのは観光客の移動だけではないので、モノの移動など他にも関わる要素を調べ直さないといけない。社長だったら何を目標とするかを考えてみたが、なかなか思い浮かばない。IR 情報を読み直したり有価証券報告書を見てみようと思う。
- ・中間発表をした。テスト前から少しずつシナリオを考えたり、いろんな本を読んだりしたので 以前よりもはるかに濃い内容にすることができたと思う。
- ・ほかの班の発表を聞いて、自分たちの班にはエネルギー要素と、データの根拠が足りないと感じた。スライドで示しきれなかった部分もあるが、推測だけでシナリオを考えていたところもあり、それは反省点だと思う。



【生徒作品・成果物】

20年後のmanpower in Japan



【講評】

《良かった点》

- ・講義を複数回に分けて段階を踏むことで、生徒はその時々にするべきことがわかり集中できたように思える。また、講義のファイルは解説付きで生徒に配信したので、あとから見直すことができた。
- ・様々な資料をもとに議論するよう指導したので、情報の収集や分析に積極的に取り組み、論理的な思考力も養えた。また、市役所への聞き取り調査などを行った班もあった。
- ・例年練習でシナリオの完成まで行っていたが、今年度はドライビングフォースを挙げるだけとし、4月の最初から課題研究に取り組んだ。そのため、時間の余裕があり、じっくりと考える時間がとれた。

《反省点》

- ・じっくりと考える時間をとったが、それでも軸の選定はすんなりと進まず、時間がかかりかかった。例年、この段階は時間がかかり、国際シンポジウム後に軸を変更する場合もあったが、今年度はその可能性は低いように思われる。
- ・調べた情報量から考えると、発表時間は短く、取捨選択して発表するということが難しかった。

③ Global English for 11th Grade Students

【Course Mission Statement】

Giving presentations is an integral part of the activities that students on the Global course are expected to be able to perform. In this course, students will learn how to introduce various aspects of Japanese culture in an engaging way to an audience abroad, and by doing so contribute to a meaningful cultural exchange. In order to do so, the students have to gain the flexibility to switch perspectives; they will practice to shift between their own Japanese perspective and the perspective of their foreign audience, which is not familiar with Japanese culture. In the process, students will also practice analytical thinking skills that will help them design effective presentations.

【Required Academic skills】

Students will be exposed to and expected to practice the following academic skills.

- Effective research skills (E.g. identifying valid resource material)
- Effective reading in relation to sourcing research content
(E.g. skimming, scanning, academic article approach)
- Effective presentation skills
- Effective thinking skills
- Effective questioning skills
- Effective discussion skills
- Teamwork



<オーストラリア修学旅行での企業訪問時に行ったプレゼンテーションの様子>



【GE 高 2 時の目標】

グローバルコースの生徒が英語でプレゼンテーションをする機会は非常に多い。海外、国内問わず、人前で話すことには事欠かないが、そのスキルを上達させることが GE の主な目標である。

高 1 の 3 月に行われた海外フィールドワークにおいて、英語でのプレゼンテーションはすでに経験している。高 2 時では、自分たちが普段のグローバルの授業で取り組んでいるシナリオ・プランニングを英語で説明するという、より高度な内容になっている。高度な内容をそれに対する予備知識を持たない人に説明することは英語の力だけでなく、自分たちを客観視する能力、物事を俯瞰して捉える能力も必要とされる。国際シンポジウムの前に、英語でのシナリオ・プランニング発表はオーストラリアへの修学旅行にて行っている。姉妹校のブリズベン・グラマー・スクールにおいて、1 日かけて発表・ディスカッション・まとめを行った。そこででの反省を踏まえ、今回の国際シンポジウムでの発表にいたる。

日本語では深い思考が可能であっても、第 2 言語での深い思考は、相当な訓練と慣れが必要である。日本在住の生徒にとって、シナリオ・プランニングのディスカッションを英語で行うには、頭の中で日本語を整理して英語に訳しなおすことが精一杯であろう。それを即興の英語で対処できるようになるには、まだまだ練習が必要である。

<オーストラリア修学旅行での姉妹校 Brisbane Grammar School での SP 説明、ディスカッション後のまとめ発表の様子>



<国際シンポジウムに向けたパネルディスカッション・外国人留学生との SP 準備の様子>



3. 三年生

卒業論文制作

【意義・ねらい】

高校三年間のグローバルコースの活動の集大成として、これまで行ったシナリオ・プランニング(SP)を卒業作品集としてまとめている。2期生も大きなテーマとしては前年度の「エネルギー」を踏襲しており、テーマや方向性がどうしても重なってくる部分がある中、少しでも精度の高い予測を実施するため情報の収集段階から信頼できる機関からのデータを多く集めることを心がさせた。

しかし、論文の執筆という経験が不足していたため、言い回しや展開などの指導に予定よりも時間を取られてしまった。

また、論文については、インターネット上からの引用が非常に多いこと、専門用語が多いことから脚注を活用した形で執筆することとした。

【制作の流れ】

具体的な制作の手順は以下の通りである。

① 国際シンポジウムでの発表を受けての反省点の洗い出し

高校2年の秋に開催された国際シンポジウムにおいて、ポスター若しくは舞台上のパワーポイントで発表したSPの内容をブラッシュアップしたものを卒業作品とする。しかし、シンポジウムの時点で納得できるところまで到達していない班や、質疑の中で方向性の修正が必要となったり、テーマそのものに致命的欠陥があるなど修正点が見つかりそれなりの成果はあったように思われる。

② 「卒業作品集」の構成の説明。

最初に卒業作品集の構成を説明した。SPはそもそもチームで行うものであるため個人執筆部とのバランスを取るように指示した。加えて、1期生の論文集と脚注を使用するという事で、参考となる論文を最初に提示し、全体のレイアウト統一を図った。

③ 班内共通部分の執筆

各班のトピックについて、中心となる議論は共通部分とした。それまでに議論を重ねてきたこともあり、話し合いながら書き進めるというよりも、担当を分配して執筆するという形式になった。

④ 個別論述部分の執筆

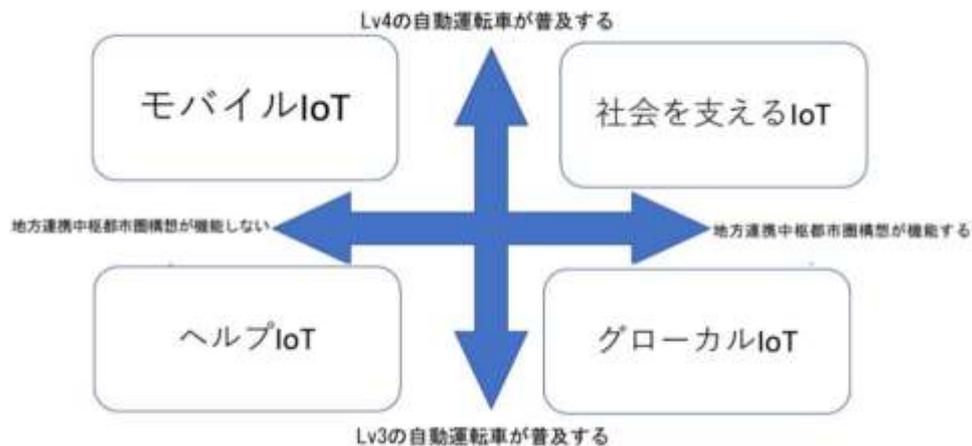
概要ができあがった後は、個人が班のトピックに絡めて問題提起を行い、自由に論じることとした。基本的にはそれぞれに担当の象限を割り振る形とし、1つの象限に2名程度の担当者がつくことになった。様々な可能性を秘めている象限では担当者ごとに違った論旨になったが、起こって欲しくない未来については展開が似たようなことになるため、打開策を考えるようにして違いが生まれるように心がけた。

⑤ 全作品の集約

〆切を設けて、全班の共通部分と、全員の個別論述部分を集め、仮組みを行った。

⑥ 英語によるサマリーの執筆

各班の共通部分を、各班の英語係が、また、各自の個別論述部分については、各人が、要約して英語のサマリーを執筆した。



【講評】

- エネルギーというテーマに対して苦戦しながらなんとか形にしたが、追い込まれながらの作業になったため、注の整備などに思いのほか時間がかかった。
- 共通部分を含めて個人が執筆した部分を最終的に合わせるような形になるため、1つの言葉に対しての定義や表記が班の中で完全に統一されておらず、推敲にも時間がかかった。
- 情報を集める中で、都合のいい情報だけを集めるようなやりかたでは立証したとは言えないこと、情報の発信元が非常に重要であることが認識できた。
- 個人担当部に関しても担当象限によって記述できる内容にそもそも厚みの差があり、記述できる内容の乏しい章段に関しては苦勞している感じがあった。
- 公的機関や企業体の情報が欲しい場合には、経営戦略的な判断から十分に情報が開示されていない場合もあり、そういう部分での難しさも感じた。

編集後記

清風南海高等学校
SGH プロジェクトチーム

今年で3回目となる「国際シンポジウム」であるが、2年前より少しずつ改良を加え、ある程度形が整ってきた感がある。まだまだ試行錯誤を繰り返さねばならないだろうが、本校独自の「国際シンポジウム」というものが確立されつつあると言えるであろう。

昨年度より始まった、中学生による「ポスター発表」がシンポジウムに先立って行われ、グローバルコース生も手分けして発表を見学し、先輩として助言を与えることになっている。グローバルコースの活動が、学年を超えて生かされる貴重な機会となることを大変嬉しく思う。教育改革が急速に進む中、グローバルコースの活動を通じて培った、論理的・批判的思考力や課題発見・解決能力が自らの成長に資するだけでなく、後輩たちの成長の一助となることは、現在の改革の流れから見ても、非常に有意義なことであると言えよう。このような活動が、今後ますます充実していくことを期待したい。

本冊子は、シンポジウムに参加していただく外国の方にも読んでいただけるように、可能な限り英訳を付けるという方針で編集し、外国からのゲストの来日後の様子も可能な限り載せてみた。この冊子が活動の記録となり、継続的な精進努力の礎となれば幸いである。



今後の予定

◎平成 31 年 2 月 21 日 (木) 「平成 30 年度中間発表会」 於、本校

1. スーパーグローバルハイスクール平成 30 年度後半の諸活動の報告
 - ① 「未来を考える国際シンポジウム」を終えて
 - ② 3 年生の「SP 論文集」について
 - ③ 2 年生の SP を中心とする活動について
 - ④ 1 年生の STEP や GE 等の活動について
2. SGH 3 年間の活動のまとめ
3. 来年度以降の SGH 活動について



清風南海学園 中学校・高等学校

Tel 072-261-7761

Fax 072-265-1762

<http://www.seifunankai.ac.jp/>